

## 単元案の概要

テーマ
韓国語でラジオ番組を制作する
目標
学習レベル 3
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 韓国のラジオ放送の構造を把握するとともに、特有の表現を把握し、紹介することができる。</li><li>○ 韓国語のラジオ放送にふさわしいことばを選択し、また自然さを伴った発話ができる。</li><li>○ メンバーと役割を分担し、また協力し、ひとつのプロジェクトを遂行することができる。</li></ul>
コミュニケーション能力指標
【話題分野】人との付き合い
3-b 相手に受け入れてもらえるような表現を使って、口頭で忠告や断りなどができる。
3-c 相手の年齢や立場を配慮して、手紙を書くことができる。
3-f 日本と相手の国の人びとの好みや日常の習慣・つきあい方について書かれた文章を、読んで大意を理解できる。
3-g インターネット・電話・ファックスの使用に関する指示を、聞いて理解できる。
学習シナリオ
<p>福岡大学東アジア地域言語学科韓国コースでは主として3年次に韓国言語文化特講という授業を受講することになっている。韓国の言語文化について深く学ぶことを目的とする授業である。受講者数は例年10~20人であるが、今学期は12人が受講し、全員が3年生であった。受講生の特徴としては、次のようなことがあげられよう。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 韓国に長期留学経験のある学習者はいない。</li><li>② 女子学生がほとんどで、男子学生は1名。</li><li>③ 受講生12人のうち、10人は前期の授業を受講している。なお前期の授業では韓国語によるラジオ番組制作を行った。</li></ul> <p>本年度後期の授業では「韓国語でラジオ番組制作」を目標に、ラジオ番組の構成やそこで試用される言語表現について学んだ後、ラジオ番組を実際に制作してみるプロジェクトを通じて学んでいく。</p> <p>なお、本授業の評価は、制作された作品に対する相互評価を中心に、課題への取り組み、Modeでの活動状況、出席等で総合的に判断する。つまり、チームでの評価と個人での評価をミックスして行う。</p> <p>また、制作した作品は同じ学科の1年生や2年生の授業で聞かせることを授業開始に当たって宣言してある。</p>

- ・ 第1週 ガイダンス、前半チーム分け、Moodle 登録
- ・ 第2週 ラジオ番組分析：番組オープニング
- ・ 第3週 ラジオ番組分析：お便りの紹介
- ・ 第4週 ラジオ番組分析：ラジオCM
- ・ 第5週 ラジオ番組分析：インタビュー
- ・ 第6週 ラジオ番組分析：番組エンディング
- ・ 第7週 学生制作番組中間鑑賞会：インタビュー部分
- ・ 第8週 後半チーム分け、相互評価ルーブリック検討
- ・ 第9週 学生によるラジオ番組分析：オープニング・エンディング、構成検討その1
- ・ 第10週 (予定)学生によるラジオ番組分析：ラジオCM、構成検討その2
- ・ 第11週 (予定)台本の読み合わせと検討その1
- ・ 第12週 (予定)台本の読みあわせと検討その2
- ・ 第13週 仮録音の検討会
- ・ 第14週・第15週 作品鑑賞評価会

#### 総括的評価

- ・ 制作するラジオ番組の台本に対する評価
- ・ 制作したラジオ番組の音声ファイルに対する評価
- ・ 数回課される課題の提出状況
- ・ Moodle 上の活動状況
- ・ 出席状況

3 × 3 + 3 分析

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国のラジオ番組の構成について、番組レベル、コーナーレベルで理解している。</li> <li>韓国のラジオ番組で使用される言語表現について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国のラジオ番組を日本で聴取する方法を理解する。</li> <li>ラジオのオープニングやテーマの意義や役割を理解する。</li> <li>時間帯による雰囲気の違いや情報の違いについて理解する。</li> <li>ラジオCMについて時間や手法について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国のポッドキャストを利用する方法を理解している。</li> <li>音声編集ソフトについて基礎知識を持つ</li> <li>外国語の談話であれ、ひとつの談話はいくつかの部分からなり、各部分にも構造があることを理解する。</li> <li>Moodle の基本的な使用方法がわかる。</li> </ul>
できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラジオ番組にふさわしい言語表現を使用した台本を制作することができる。</li> <li>制作するラジオ番組において、ラジオらしい言葉づかいで発話することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的にあわせ韓国のラジオ番組を選択し、聞くことができる。</li> <li>ラジオ番組の構成を参考に、自ら制作するラジオ番組を構成することができる。</li> <li>ラジオ番組のコーナーの構成を参考に、自らラジオ番組のコーナーを構成することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポッドキャストからファイルをダウンロードし、またそのファイルをアップロードしたり、リンクすることができる。</li> <li>音声編集ソフトを使用しひとつのファイルを作ることができる。</li> <li>韓国語でひとつの談話を計画し、構成し、伝達することができる。</li> <li>Moodle を使用することを通じ、教室外での学習に活用することができる。</li> </ul>
つながる	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラジオ番組制作を通じ、リスナーとの共感、リスナーへのメッセージの伝達を行い、時間と空間を越える媒体を利用したコミュニケーションを行いつながることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国のラジオを楽しみ、韓国の「現在」、韓国のリスナーとつながることができる。また、日本で韓国のラジオ番組を楽しむ人とつながることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室外でもグループ学習を行うことで、教室の外でも学習者や教員が随時つながることができる。</li> <li>作品を残すことで、後輩や同僚学習者、また学習者や教員の周辺と直接的また間接的につながることができる。</li> </ul>
三連携	連携1 学習者の関心や興味に応じて、他者に伝えたいことを韓国語でわかりやすく伝えるための方法を主体的に考察し、実践する。 連携2 リスナー(本授業では、同僚学習者を想定)を想定し、リスナーの水準を意識しつつ、興味を惹く内容を構成する。 連携3 作品として残るということを意識した言語活動を行う。		

C : 目標の要素分解

個々のタスク	小目標	中目標	大目標
番組全体の構造を解説することができる (例) 音楽→番組名→音楽→名乗り→エピソード→テーマ紹介→お便り募集→曲紹介	ラジオ番組の構造的特徴を把握する	ラジオ番組を分析し、さまざまな特徴を把握し、また指摘することができる。	韓国語のラジオ番組の構造的特徴、言語的特徴を把握し、その知識を基にグループ活動として10分程度の韓国語によるラジオ番組を企画し、台本の作成、番組の録音、音声ファイルの編集を行い、ラジオ番組として完成させる。
小コーナーの構造を解説することができる (例) コーナーの合図→お便りの導入→朗読→コメント→曲紹介→音楽 <b>【形成的評価】</b> : 学生がラジオ番組を分析した発表用レジュメ			
ラジオでよく使われる表現を指摘することができる (例) 오늘은 여기서 인사 드립니다, 행복한 저녁 되세요, 사랑합니다. <b>【形成的評価】</b> : 学生がラジオ番組を分析した発表用レジュメ	ラジオ番組の言語的特徴を把握する	時間や空間を越えたりリスナーとのコミュニケーションを意識し台本を執筆することができる。	
話す速度やポーズ、笑い声、感情表現の仕方について指摘することができる。 <b>【形成的評価】</b> : 学生がラジオ番組を分析した発表用レジュメ			
番組に必要な要素(番組名、DJの名乗り、テーマの導入、いくつかのコーナーの回転、エンディング)をいくつか連ね、ラジオらしい構成の台本を執筆する。 <b>【形成的評価】</b> : 学生が執筆した台本	台本の段階で興味・関心を惹く構成を組み立てることができる。	ラジオ番組として鑑賞に堪えうる音声記録されている。	
共感、語りかけ、質問、キーワードの繰り返し等の言語表現を用いたラジオらしい台本執筆。 (例) -잘아요? -ㄹ까요? 보통~, -래요 <b>【形成的評価】</b> : 学生が執筆した台本	ラジオ番組らしい言語表現を使うことができる。		
聞き取りやすさに配慮した、速度、ポーズ、イントネーション、発音で発声する。 <b>【形成定期評価】</b> 学生が録音した音声ファイル	聞き取りに耐えうる水準の音声である。	ラジオ番組として鑑賞に堪えうる音声記録されている。	
台本の朗読ではない、軽妙な語り口で、進行する。 <b>【形成定期評価】</b> 学生が録音した音声ファイル	リスナーに対する発話を行う。		
ボリュームやテーマ音楽、背景音楽等は聴きやすさに貢献する音声編集を行う。 <b>【形成定期評価】</b> 学生が録音した音声ファイル	聞きやすさに配慮した音声編集を行う。		

## ● D: 総括的評価のための活動の全容がわかるような指示文

※第一回目の授業では以下のような指示を与えました。

### 1. 授業で行うこと

韓国語でラジオ番組を制作し、それを1年生や2年生、あるいは留学生に聞いてもらう。

### 2. 受講生が行うこと。

- ①韓国語ラジオ番組を聴取し、番組の構成やラジオで使用される表現を分析し、把握する。
- ②韓国語ラジオ番組として通用するレベルの台本を作ること。
- ③ラジオ番組作成を通じ、韓国語ラジオ番組として通用するレベルで韓国語を話すこと。
- ④取材を行い、リスナーに関心を持ってもらえる情報を提供すること。
- ⑤音声編集を行い、ラジオ番組として完成させること。

### 3. 授業の流れ

毎回の授業は、前半はラジオ番組の分析を行い、後半はチームごとに作業を行う。  
また授業時間外での活動が求められる。

### 4. 制作するラジオ番組について

ラジオ番組は、授業の前半(1～7回:5～8分)で一つ目を製作する。これはペア(一部3名)でパートごとに製作していく。制作する番組には二人とも出演すること。

後半で(8～15回:8～10分)で二つ目を製作する。これは3～4名のチームで製作する。

番組名をつけよう。たとえば、

「마쓰자키 마히루의 행복한 오후」「안녕하십니까? 여기는 후쿠오카대학 한국코스입니다。」など。

後半の番組では、できれば韓国人に(難しい場合は受講生以外の韓国語が上手な人に)インタビューしたものを含めること。

番組全体のパーソナリティを置き、全体のバランスをとるとよい。番組内にコーナーを設け、番組を構成する。インタビュー、人生相談、ニュース、解説、CM、音楽紹介などのコーナー等が考えられる。効果音も適切に使用しよう。

### 5. 評価:以下の4項目について総合的に評価する。

- A. 毎週の課題(シナリオと録音ファイル):ペアに対する評価
- B. Moodleでの活動状況。コメント状況、ログイン状況:個人評価
- C. 後半のチーム作品:チームとしての評価・学生の相互評価による
- D. 定期試験は、授業について論じる問題を出すので、真摯に回答すること。
- E. 出席

### E : 評価ルーブリック

#### テーマ : 韓国語でラジオ番組をつくる

最後に提出されるグループ活動の成果としてのラジオ番組に対する相互評価の際に利用する予定のルーブリックです。これは、現在受講生と協議途中のもので、今後変更が加わることもあります(評価基準があらかじめ決まっていないという問題があります)。

評価基準	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し! (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
台本の韓国語の正確さ	台本の韓国語はほぼ正確で、間違いは数えるばかりである。その間違いも、些細なものであり、理解には影響を及ぼさないものである。	台本の韓国語はほぼ正確であり、文法的な間違いやつづりの間違いも少なく、理解できる。	台本の韓国語の間違いは少ないとはいえないが、理解は可能である。	台本の韓国語には間違いが少ないとは言えず、そのため理解が不可能な部分があった。
番組は理解可能か(発音、わかりやすさ、説明)	発音、使用されたことばともに明瞭で、番組の内容はほぼ理解ができた。	わかりやすく構成されていて、使用されることばも平易で理解がしやすく、発音による聴きにくさもほとんど感じられない。	一部の発音、または使用された一部のことばが、理解を阻害したが、全体としては理解可能であった。	発音または使用されたことばが理解できず、番組内容の理解にも支障があった。
番組内容は興味深いか	番組内容は大変興味深く、また大変楽しめた。また番組は最初から最後までしっかりと統一的に構成されていた。	番組内容は興味深く、ある程度楽しめた。番組はおおよそ統一感を持って構成されていた。	番組内容には興味深くはなかったが、番組はそれなりに構成されていた。	番組内容には興味をほとんど惹かれなかった。またコンセプトやカラーが把握できなかった。
録音された音声は自然であったか	出演者全員が自然な発音をしていて、本当のラジオ番組に近いと感じた。	ラジオ番組らしさがしっくり感じられ、出演者は全体的に言えば自然な発音だったといえる。	ラジオ番組らしいことばを使っていたが、台本を読んでいることを何度も意識させられた。	ラジオ番組らしくないことばの使用が目立ち、また発音は朗読に近かった。
音声編集の効果	音声編集が大変効果的に使用され、番組の完成度を高めるのに大いに貢献していた。	音声編集はラジオ番組らしさを作り出すのに貢献していた。	音声編集はラジオ番組らしさを作り出すのに貢献した部分もあったが、逆に聴きにくさをもたらしもしていた。	音声編集が逆効果になり、完成度を低める結果になってしまっていた。